中学歴史プリント（過去問類似）
弥生時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 3世紀前半の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送った背景と、その結果として得られたものについて説明した文として最も適切なものはどれですか。（2015年　岐阜公立入試　類似）

1. 中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。

2. 中国の唐から律令制度を導入するために遣唐使を派遣し、天皇を中心とした中央集権国家の仕組みを整えようとした。

3. 後漢の皇帝から金印を授かることで、九州北部を中心とした小国の連合を強固なものとし、大陸との交易を独占しようとした。

4. 仏教などの新しい文化や技術を取り入れるため、百済を通じて大陸との国交を樹立し、高度な官僚組織を構築しようとした。

問2 弥生時代から古墳時代にかけて、収穫道具が「石包丁」から「鉄鎌」へと変化したことに伴い、収穫の方法はどのように変化したか。（2016年　奈良公立入試　類似）

1. 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した

2. 地中の根を掘り起こす方法から、穂を叩いて実を落とす方法へと変化した

3. 手作業で一粒ずつ拾う方法から、土器を使って一度に回収する方法へと変化した

4. 石の表面で殻を削る方法から、金属の刃で穂を細かく刻む方法へと変化した

問3 弥生時代の遺跡から出土する銅剣や銅鐸（どうたく）などの青銅器について、日本における当時の主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年　佐賀公立入試　類似）

1. 木を切り倒したり土を掘り起こしたりするための農具として使われた

2. 戦場において敵を攻撃したり身を守ったりする実戦用の武器として使われた

3. 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた

4. 大陸との交易において支払いに用いられる、価値の基準となる貨幣として使われた

問4 稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。（2019年　徳島公立入試　類似）

1. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた

2. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した

3. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた

4. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった

問5 西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。（2019年　茨城県公立入試　類似）

1. 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため

2. 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため

3. 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため

4. 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため

問6 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、周囲を深い堀や土塁で囲んだ大規模な環濠集落である。このような集落が造られた当時の社会背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2023年　佐賀公立入試　類似）

1. 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。

2. 氷河期が終わり海面の上昇が激しくなったため、集落が水没しないよう高い防波堤を築く必要があった。

3. ナウマン象などの大型の獲物を効率よく捕獲するための罠として、村の周囲に深い溝を掘る必要があった。

4. 大陸から仏教が伝来し、その寺院を保護するために宗教的な儀礼として堀を巡らせる必要があった。

問7 島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡では、大量の銅剣や銅鐸が一箇所に埋められた状態で発見されている。これらの金属器が、当時の社会において果たしていた役割について説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2022年　島根公立入試　類似）

1. 五穀豊穣などを祈るための祭礼用の道具として用いられた

2. 大規模な森林を切り開くための伐採具として用いられた

3. 他の集落との戦争において、殺傷能力の高い武器として実戦で用いられた

4. 米などの収穫量を正確に計測するための度量衡として用いられた

問8 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。（2017年　長崎県公立入試　類似）

1. 倭国　**2.** 邪馬台国　**3.** 日本　**4.** 高天原

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。**	当時の日本には文字による自国の記録がなかったため、中国の歴史書である『魏志倭人伝』が貴重な史料となります。卑弥呼は中国の三国時代における「魏」へ朝貢し、皇帝から認められることで、国内における政治的・宗教的な権威を高める狙いがありました。授けられた「親魏倭王」という称号や、当時の宝物であった銅鏡は、その権威を裏付ける象徴となりました。
問2	**答え 1** **実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した**	石包丁は「穂首刈り」に適した道具でしたが、鉄製の鎌が普及すると、稲を根元から切り取る「根刈り」が可能になりました。根刈りは収穫の効率を大幅に高めただけでなく、収穫後の藁（わら）を家畜の飼料や肥料、わら細工などの資材として活用することにもつながりました。
問3	**答え 3** **集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた**	大陸から日本列島へ伝わった青銅器は、その多くが実用性を超えて大型化したり、非常に薄く作られたりする傾向がありました。これは、実際に物を切る・突くといった武器としての用途よりも、集落の豊作を祈る儀式や、共同体の団結を確認するための祭事において、富や権威を象徴する「祭器（さいき）」として重宝されたことを示しています。
問4	**答え 1** **王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた**	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。
問5	**答え 1** **中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため**	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。
問6	**答え 1** **稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。**	弥生時代に稲作が始まると、余剰生産物の貯蔵や、稲作に不可欠な水田・用水をめぐって集落間で利害対立が生じ、戦争が起こるようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる環濠や土塁、物見櫓は、敵の侵入を防ぎ、村を守るための防御施設として機能していました。
問7	**答え 1** **五穀豊穣などを祈るための祭礼用の道具として用いられた**	弥生時代の青銅器は、刃が薄く作られているものや、大型化して音が鳴らなくなったもの（銅鐸）があることから、武器や道具としての実用性は低かったと考えられています。これらは集落の共同体で共有され、五穀豊穣や魔除けを祈るための「祭祀の道具」として、神聖な儀式に用いられていました。
問8	**答え 1** **倭国**	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。